シリーズ

望見（ぼうけん）～鳥取市を想う～

エンジン01オープンカレッジin鳥取の開催にご協力をいただいた講師のみなさまから、鳥取市に向けたメッセージが寄せられました。

問 本庁舎広報室 ☎ 0857-20-3159

童謡唱歌への想い、そして鳥取

作曲家、岡野貞一さんの故郷は鳥取。そして岡野さんの作品、「もみじ」「朧月夜（おぼろづきよ）」「春の小川」「ふるさと」など、唱歌だけのプログラムで行われたエンジン01オープンカレッジのコンサートはなかなか刺激的でしたね。出演した私が言うのですから間違いありません。ホントに楽しかったのです。そして童謡唱歌は、音楽的にも、またそれが作られた時代背景も含めて、奥が深いということを再認識させられたと思っています。

私は小学4年生位から中学まで「みすず児童合唱団」で歌っていました。もちろん歌うことは嫌いではなかったのですが、皆に「歌が上手だね」と言われてなんとなく入団し活動していたような気がしています。もしかしたら歌うことよりも、練習の終わった後、先生に連れていってもらって何かを食べさせてもらうとか、合宿や演奏旅行でいろいろな所へ行けるとか、そんなことの方が魅力的だったのかもしれないと思うことがあります。子どもでしたから、「歌」を含めた全ての世界が楽しかったのでしょうね。でも、よくよく考えてみれば本当数えきれないくらいの童謡や唱歌を歌ってきました。今でも車に乗っている時などに口ずさむ歌の歌詞はよどみなく出て来ますし、歌も連想ゲームのように次々と浮かんできます。やはり歌ってきた「歌たち」はその後もずっと私のなかに住み続けているのです。

この10年くらい、主人（作曲家小六禮次郎（ころくれいじろう））と二人だけで童謡や叙情歌を中心としたコンサートをやっています。そこで感じることは、小さい頃はもちろん歌の意味について深く考えることはなかったけれど、歌の中に浸（つ）かって過ごした経験が、今、歌を理解し本質をつかもうと思う気持ちの支えになっている気がしています。

鳥取というと「免許」という言葉が浮かびます。砂丘でのロケで、当時運転出来ない私が車を運転しなくてはならないシーンで危うく事故を起こしそうになった思い出があるからです。でも今回の鳥取訪問からはイメージが変わりました。砂丘をステージに見立て私が歌う姿を想像しています。

目を上げて砂丘で歌う春のうた

ちょっと、俳句もはじめてみました。

今年12月18日、とりぎん文化会館でコンサート公演があります。

是非いらして下さい。

倍賞千恵子　俳優／歌手

※倍賞千恵子さんのコンサートの日にちについて、みなさまにお届けした市報には「12月17日」と記載していますが、「12月18日」に変更となりました。記載を修正のうえ掲載していますのでご了承ください。

エンジン01オープンカレッジin鳥取のオープニングで行われた倍賞さんと小六さんのミニコンサート

俳優 倍賞千恵子（ばいしょうちえこ）

東京都出身。
松竹音楽舞踊学校を首席で卒業。松竹歌劇団（SKD）へ入団。松竹にスカウトされ、「斑女」でデビュー。1962年「下町の太陽」でレコード大賞新人賞を受賞。1969年芸術選奨文部大臣賞。2005年紫綬褒章受章。映画「男はつらいよ」のさくら役に代表される庶民派女優として、また、歌手として活躍中。
エンジン01オープンカレッジin鳥取では、オープニングミニコンサートや、講座「一句ひねってみよう！」、「われら動物愛護委員会！」を担当。夜楽にも参加いただきました。

「職場体験」で感じたこと

本市では、全中学校の２年生全員を対象として、市内の事業所のご協力とご理解をいただきながら、職場体験学習を実施しています。これは、地域社会に学び、地域の方々とともに「生きる力」や感謝の心を育み、課題を解決していこうとする意欲や態度、豊かな人間性を育成することを目的として行っているものです。

市役所では、湖東中学校２年の武内健登（たけうちけんと）さんと村上菜那（むらかみかんな）さんが６月25日から28日までの４日間、鳥取空港とトイザらスで職場体験をしている中学生を取材し、「とっとり市報」のこの１ページを作成しました。

中学生は、初めて知る職場でのルールやマナーに戸惑いながらも、身近な課題に置き替えて理解し、あらためて、家庭や学校での生活の大切さを実感していたようです。

この職場体験が、中学生一人ひとりの日常生活の振り返りとなり、社会人としての第一歩になれば幸いです。

問 本庁舎広報室 TEL 0857-20-3159

鳥取空港

人と接する事の楽しさ

鳥取空港は、鳥取県東・中部と兵庫県北部の空の玄関です。そこは飛行機に乗る人が集まる場所という印象が強いですが、実際は移動されるお客様の手助けをするとても気遣いにあふれた場所です。

職場体験中の中学生４人は、売店での商品の陳列・搭乗者の受付の手伝いなどをしていました。売店を訪ねてみると、中学生２人が真剣なまなざしで仕事を行っていました。

売店で指導されていた田村さんに仕事をしていてうれしいことを尋ねると、「接客している時、鳥取県の特産物が売れた時がとてもうれしいです」と言っておられました。

中学生４人に感想を聞いたところ、「いろんな人と接することができたし、いろんなことを体験できた」、「達成感を感じた」などの返事があり、４人ともとても充実した表情で仕事に戻っていきました。

担当の人と仕事をしている様子

トイザらス 鳥取店

まずはあいさつから

おもちゃ、ゲームソフト、ぬいぐるみなどを販売している「巨大なおもちゃ屋」トイザらスでは、４人の中学生が、主に商品の陳列・倉庫の整理・お客様の接客・新しい値札の設置などの仕事を体験していました。

体験中の中学生に話を聞いたところ、「大きな声であいさつ・返事、あいさつのときに笑顔ですることが大切」と言っていました。

仕事の説明を受けている様子

担当の人に話を聞いたところ、「学校にはない働く場なので、わからないことは聞いて、働く意義を感じてほしい」と言っておられました。また、「一緒に働くスタッフのモチベーションを保つことを心掛けている」とも言っておられました。

中学生の４人は、話していた様にお客様とすれちがうたびに大きな声であいさつをしていました。

竹内市長にインタビュー

鳥取市長から中学生へ

職場体験初日に、竹内市長に面会し、インタビューしました。市長という仕事をしていて、何か学んだことはありますかと尋ねると、「多くの異なった意見を１つにまとめるのは関係者の努力がないと難しい。でも、１つにまとまると強大なものになり、よりよい意見がでることもある。社会の問題点を解決していくための努力や成果はいくつになっても面白いものである」と話しておられました。市長へのインタビューはとても短い時間でしたが、経験というものは大事で、様々な人と交流することによって積まれていくものだとわかりました。

編集後記

市報の作成をしてみて、いつもあたりまえのように見ている新聞や市報は裏でがんばって作っている人がいることがわかり、作っている人たちはすごいなと思いました。貴重な体験ができてよかったです。（武内健登）

取材の日にち、時間の確認をとることから始まり、最終的に市報をまとめるまでにたくさんの方にお世話になりました。今度市報を見るときは、また違った見方もできると思います。（村上菜那）